

研究課題名「早産の病態解明のための研究」に関する情報公開

1. 研究の対象

- ・ 2006年1月1日～2016年12月31日の期間に当院で分娩し、胎盤病理検査を施行された方
- ・ 2006年1月1日～2016年12月31日の期間に、「妊娠高血圧症候群の病態解明と新規治療法の確立」（承認番号：648）の研究参加し胎盤組織を提供いただいた方

2. 研究目的・方法

- ・ 研究期間：実施承認日～平成32年3月31日

目的：早産は妊婦にとって最も頻度の高い合併症であり、早産により出生してくる児の生存率は改善している反面、依然として児の神経学的後遺症などの重篤な後遺症発症率は減少しておりません。上行性感染から子宮内に炎症が惹起され、子宮収縮に関連する分子の発現が亢進することが一因ではないかと考えられておりますが、完全な病態は解明されてはおりません。そこで、今回わたしたちは、細菌の一部を認識する受容体であるToll like受容体や、炎症によって上昇するサイトカイン（インターロイキンなど）、サイトカインによって誘導される炎症性蛋白や、子宮収縮関連分子（エンドセリン、スフィンゴシン-1など）やその合成、分解に関わる分子などの発現を検討して、病態解明および新規治療法の開発につなげていきたいと考えております。

方法：上記の方を対象に、すでに当院に採取し保存してある検体（胎盤のパラフィンブロックおよび胎盤組織）を用いて、細菌の一部を認識する受容体であるToll like受容体や、炎症によって上昇するサイトカイン（インターロイキンなど）、サイトカインによって誘導される炎症性蛋白や、子宮収縮関連分子（エンドセリン、スフィンゴシン-1など）やその合成、分解に関わる分子などの発現の程度を検討していきます。また、年齢、妊娠回数、分娩回数、分娩週数、身長、体重、分娩様式、児の性別、児の体重、病理組織学的検査の結果、合併症の有無、母体採血情報（耳血、CRP）などの臨床情報も診療情報などから使用して、それらの因子が上記の分子の発現に与える影響も検討していき、最終的に早産の病態に関与している因子を同定していきます。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

- ・ 情報：年齢、妊娠回数、分娩回数、分娩週数、身長、体重、分娩様式、児の性別、児の体重、病理組織学的検査の結果、合併症の有無、母体採血情報（耳血、CRP）など
- ・ 試料：胎盤

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、
研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

名古屋大学大学院医学系研究科産婦人科学 小谷友美（研究責任者）

住所 名古屋市昭和区鶴舞町 65

電話 052-744-2261

FAX 052-744-2268